

大学生の キャリア形成論の 本質的な問題とは何か

下村英雄

労働政策研究・研修機構

➤ 大学生のキャリア意識形成は、
様々な社会的状況を反映した問題として捉えられる。

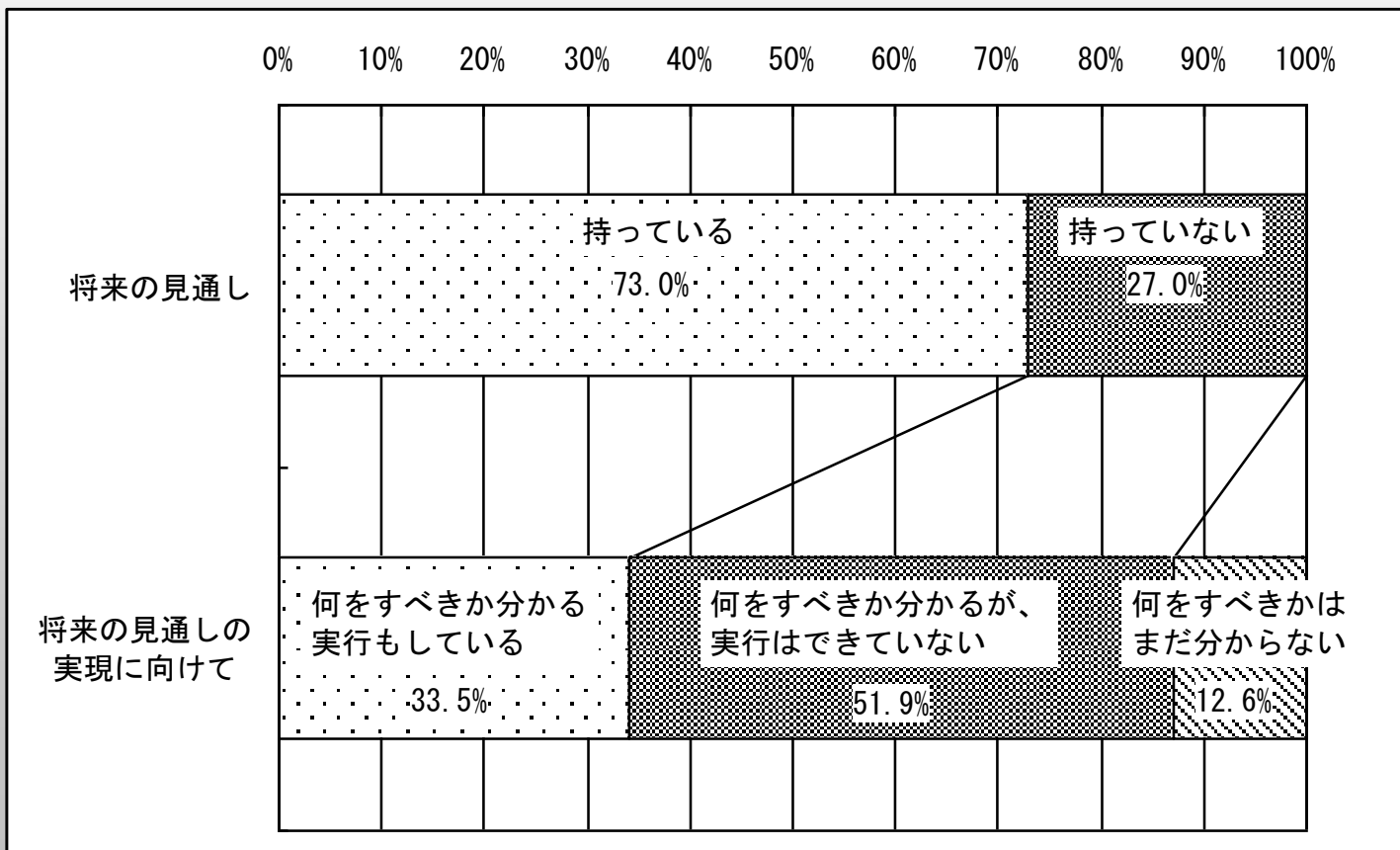
1. 若者の不安定就労（フリーターやニート等）
2. 高学歴化に伴う大学生の多様化
3. 産業界のより高度な人材ニーズ等

➤ 反面、大学生のキャリア意識形成は、時代の影響に左右されない、より本質的な問題として考えなければならない側面がある。

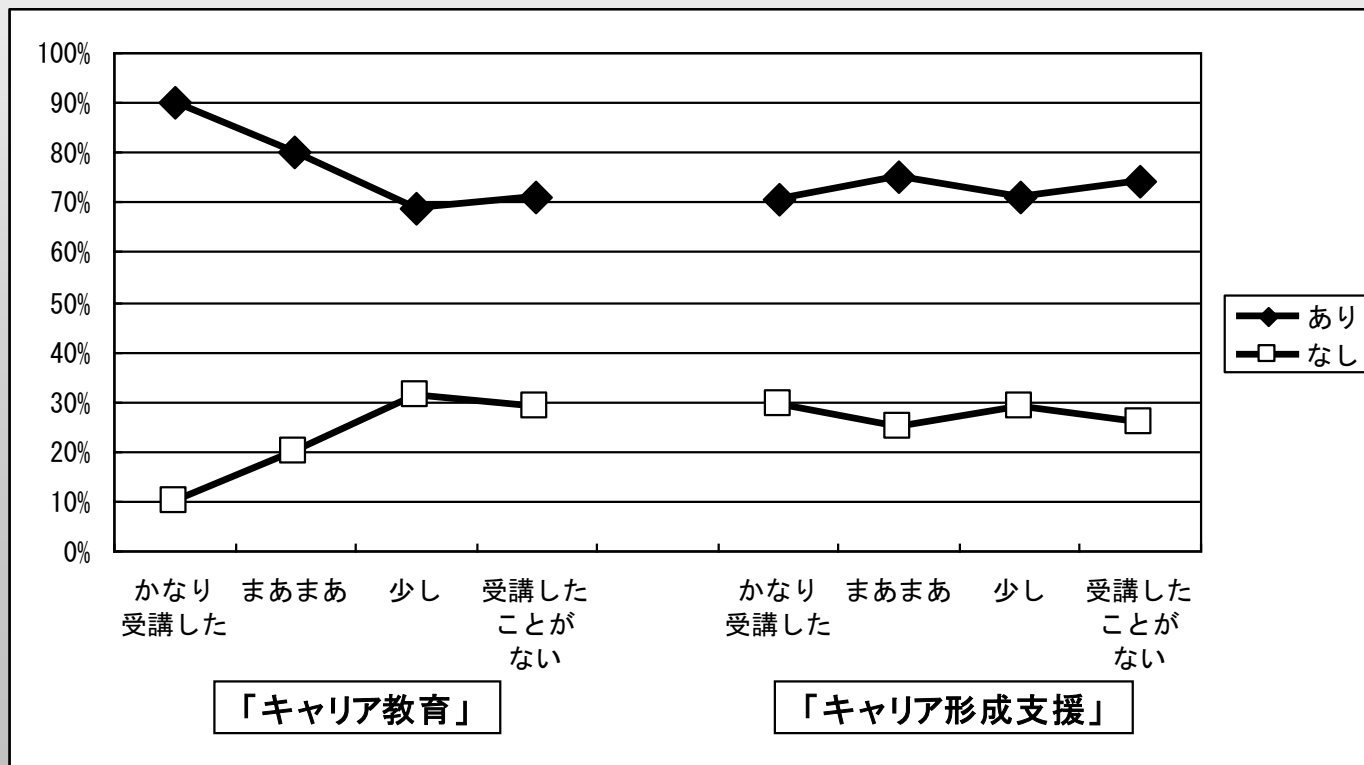
➤ 大学生のキャリア形成論の本質的な問題とは何か。

- 『大学生のキャリア意識調査2007』
他の調査では、この問題を考えるにあたって手がかりとなる興味深い結果が見られる。
- 以下、『大学生のキャリア意識調査2007』の他、3つの調査結果をもとに、大学生のキャリア形成論について考えることとする。

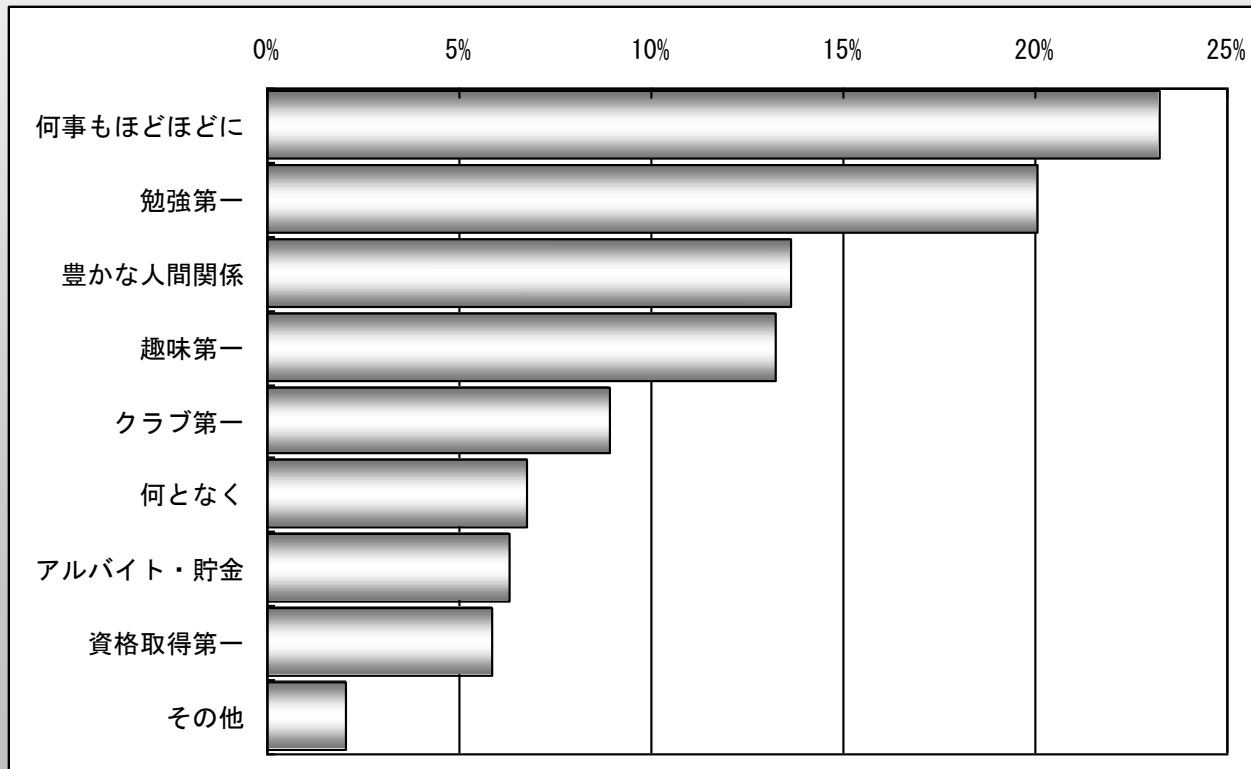
1. この調査に回答した大学生の半数は「何をすべきか分かるが実行はできていない」と回答した。



2. 「キャリア教育」への参加は将来の見通しの有無と関連があるが「キャリア形成支援」への参加にはそのような関連はない。



3. 約7割の学生は将来の見通しをもっているが大学生活は「何事もほどほどに」したいという回答が多い。



【調査1】 2007年大学1年生調査①

➤ 2007年9月に、都内私立大学349名を対象に、「今後、力を入れてやっていきたい目標を書いてください」という自由記述を求めた。

- 「親友と呼べる友達を作る」
- 「授業で確実に単位をとる」
- 「毎日こつこつ勉強する」
- 「サークルに入って楽しみたい」
- 「自分から進んで行動する」

【調査1】 2007年大学1年生調査②

○友達・友人	48	14.7%
○勉強	45	13.8%
○サークル	41	12.6%
○授業	40	12.3%
○自分	36	11.0%
○生活	35	10.7%
○英語	21	6.4%
○資格	18	5.5%
○将来	17	5.2%
○単位	11	3.4%
○アルバイト	9	2.8%
○部活	5	1.5%

➤自由記述内容の
トップ5は、
「友達・友人」
「勉強」
「サークル」
「授業」
「自分」

下村英雄・八幡成美・梅崎修・田澤実(印刷中)

『キャリア意識の発達に関する効果測定テスト(CAVT)の開発』

日本キャリアデザイン学会2008年度大会(京都産業大学)にて発表予定

【調査2】 2007年大学4年生調査

- 2007年12月に、就職活動を終えた大学4年生1,850名に調査を実施。
- 大学生活で「勉学」「友人」については「うまくやれた」という思いが、就職活動の結果に+方向に影響を与えていた。

	β	sig.
勉学（授業、単位など含む）	.07	*
活動（サークル・アルバイトなど含む）	-.08	*
友人	.09	*
自分	.06	
生活	.02	
将来	.04	

表は就職先が「第1志望か否か」を被説明変数とした重回帰分析。 β は標準偏回帰係数。
*は5%水準で有意。

より厳密なロジスティック回帰分析でも同様の結果だった。

【調査3】 2004年大学4年生調査①

- 2004年7月に、大学4年生506名に調査を実施。
- 7月時点で、就職活動を終了していた学生とそうでない学生の特徴を比較した。

○就職に向けて努力した事から

	就職活動 未終了 (N=255)	就職活動 終了 (N=251)
面接のためにプレゼンテーション能力を高める	2.29	<u>2.56</u>
多様な経験により人間的な魅力を高める	2.78	<u>3.01</u>
情報を収集する	3.10	<u>3.31</u>
人脈をひろげる	2.16	<u>2.37</u>

【調査3】 2004年大学4年生調査②

○大学時代に身についた事から

	就職活動 未終了 (N=255)	就職活動 終了 (N=251)
人脈形成力	2.61	<u>2.90</u>
状況の変化に柔軟に対応する力	2.92	<u>3.17</u>
自己表現力	2.74	<u>2.98</u>
人間関係を円滑にする力	2.94	<u>3.16</u>
熱意・意欲を維持する力	2.76	<u>2.97</u>

○友人からどう思われていると思うか

	就職活動 未終了 (N=255)	就職活動 終了 (N=251)
元気な人	46.1%	<u>61.8%</u>
勉強ができる人	29.9%	<u>44.6%</u>
明るい人	55.3%	<u>69.2%</u>
どんなことにも一生懸命である人	38.9%	<u>52.8%</u>

【調査3】 2004年大学4年生調査③

○自分自身のことをどう思うか

	就職活動 未終了 (N=255)	就職活動 終了 (N=251)
他人に対して、自分の意見をはっきり言う方だ	3.25	<u>3.72</u>
グループの中心になって、他の人を引っばっていかこうとする方だ	2.95	<u>3.32</u>
どうせやらなくてはならない雑用は、早めに片付けてしまう	3.23	<u>3.56</u>
10分や20分の空き時間・待ち時間も、なるべく有効に使う	3.35	<u>3.68</u>
誰かが困っているのを見たら、進んで手助けする	3.70	<u>3.87</u>
自分はどのように生きるべきかと、悩むことがある	<u>4.05</u>	3.67

様々な調査結果から言えること

- 大学生にとってキャリアや将来の問題は、日々の授業や友人やサークルなどの延長線上にあるもの
- そうした日々の大学生活にまつわる個人的で小さな出来事が、大学生にとっては大問題であり、解決すべき課題。

➤すなわち、大学生にとって解決すべき本質的な問題とは

「日常生活」

にある。

➤ 大学生のキャリア形成論は、常に、
職業やキャリアの問題と個々の大
学生の**パーソナルな問題**とを切り
離されて論じがちになる。

職業や
キャリアの
問題

パーソナルな
問題

職業や
キャリアの
問題
パーソナルな
問題

- しかし、大学生にとって将来のキャリアは個々の日常生活と分かちがたく結びついており、
「個人的であるがゆえに社会的である」といった側面がある。
- 「就職支援（キャリア形成支援）」
「キャリア教育」「正課教育」の
三者間の関係もこうした観点から整理できるのではないか。

まとめ

- 「正課教育」こそが大学生にとっての日常生活であり、それと分離した「キャリア教育」は学生にとって距離がある。
- 理想的には「正課教育」の中に「キャリア教育」的な視点が盛り込まれるべきであり、それが日常生活に将来のキャリアが織り込まれている大学生の実情にもあっている。
- それと同時に、よりテクニカル・プラクティカルな「就職支援」のベースとなる。